

一番の家紋（市島町・山南町）

元弘（げんこう）三年四月（一三三三年）、京都から丹波の篠村（しのむら）（京都府亀岡市）に入った足利尊氏（あしかがたかうじ）は、北条氏（ほうじょうし）の幕府を討つ（うつ）考えであることを、明らかにしました。そうして、北条氏の幕府が、京都にしている役所の、六波羅探題（ろくはわたんたい）を攻めるため、軍勢をつのりました。

足利尊氏の家は、源氏の嫡流（ちやくりゅう）（本家にあたる家すじ）です。

ほんとうの源氏の嫡流は、源義家（みなもとよしいえ）（八幡（はちまん）太郎）の長子義親（よしちか）の子孫で、鎌倉に幕府をひらいた源頼朝（よりとも）の家なのですが、頼朝の家は、鎌倉幕府の三代めの将軍であった実朝（さねとも）で、あとが絶えてしまいましたので、幕府の実さいの権力（けんりょく）は、源氏ではない北条氏が、代々、執権（しっけん）という職について、にぎっていました。したがって、残った源氏のなかでは、源義家の次子義国（よしくに）の子孫である足利尊氏（あしかがたかうじ）の家が、源氏の本家にあたる家すじになっていたのです。



この、尊氏（たかうじ）のよびかけにこたえて、久下（くげ）、長澤（ながさわ）、志宇知（しうち）、山ノ内（やまのうち）、葦田（あしだ）、余田（よでん）、酒井（さかい）、波賀野（はがの）、小山（こやま）、波々伯部（ははかべ）などの、源氏にゆかりのある丹波の豪族が、兵をひきつれて、篠村にあつりました。

このとき、真（ま）さき（さき）にかけつけたのは、二百数十騎（き）をひきいる栗作郷（くりさくのごう）（山南町）の地頭職（じとうしょく）であり、また領家職（りやうげしよく）でもあった久下弥三郎時重（くげやさぶろうときしげ）でした。時重の兵は、みな旗（はた）さしものや笠（かさ）などに、一番（いちばん）とかいた紋章（もんしやう）（もんしよ）をつけていました。



足利尊氏は、そのわけを時重（ときしげ）にたずねました。時重は答えました。

「いまを去る治承（じしやう）四年八月（一一七九年）、われらと先祖を同じゅうする源頼朝公（こう）が、伊豆国石橋山（いずのくにいしばしやま）で、平家を討つための兵をあげられたとき、わたしより六代の祖（そ）、久下次郎重光（くげみつ）は、二百八十騎をひきいて、真（ま）さき（さき）に石橋山へはせ参（ま）じ（さんじ）しました。この一番（いちばん）のしるしは、そのとき頼朝公（こう）からじきじきにいただいたわれら久下一族（くげいちぞく）のほこりとする家紋（かもん）です。」

「おお、時重（ときしげ）。よくぞかけつけてくれた一（いち）。」

足利尊氏（あしかがたかうじ）は、よろこびをかくしませんでした。源氏の本家（ほんか）なので、久下時重（くげときしげ）が、源満仲（みつなか）の弟の太郎武末（たけすえ）の子孫であることを、尊氏はよく知っていたのにちがひありません。

「ただちに時重（ときしげ）は、わが惟懼（いあく）（作戦（さくせん）をめぐらすところ）に加われ。」

久下氏（くげし）は、石橋山へ真（ま）さき（さき）にはせ参（ま）じた次郎重光（じらうしげみつ）のころは、武蔵国大里郡久下庄（むさしのくにおおざとぐんくげのしょう）（埼玉県）に住んでいたのですが、承久（しやうきゆう）三年（一二二一年）、重光の孫の直高（なおたか）の代から、丹波の栗作郷（くりさくのごう）にうつり住んでいたのです。

やがて、足利尊氏（あしかがたかうじ）が、征夷大将軍（せいゐだいしやうぐん）になって幕府（室町幕府）をひらくと、久下氏は丹波の守護代（しゆごだい）となって、氷上郡の南部をはじめ、美作国印庄（みまさかのくにいんのしょう）、丹波国河口庄（かわぐちのしょう）などを支配しました。

弥三郎時重（やみさぶろうときしげ）から、八代あとの右衛門尉重治（うゑもんじやうしげはる）のとき、久下氏は玉巻城（たまきじやう）（山南町、玉巻）によって、丹波へ侵入してきた織田信長（おだのぶなが）の軍勢と、五年のあいだ戦いました。が、天正（てんしやう）七年八月（一五七九年）玉巻城は落城（らくじやう）し、城主重治（じやうしげはる）は自殺（じそく）しました。重治の妻は、子の千丸（せんまる）（吉重（よししげ））とともに城をおちのび、およそ一年のあいだ各地にひそみかかれたのち、上竹田村段（だん）（市島町）に住みつきました。



この段の地にある久下重治の墓は、室町時代の末期の守護大名（しゆごだいみやう）の墓のかたちをいまに伝えています。墓の中央にもってある丸い小石は、重治の妻が、竹田川の川原からひろいあつめた小石に、玉巻城で討死（うちじに）した家臣（かしん）の名をしるして、その霊をとむらうためにおさめたものだといわれています。



また、段の久下本家には、足利将軍直筆の書や、段銭別注進状（たんせんべつちゆうしんじやう）など、貴重な文献（ぶんげん）とともに、一番の家紋が、伝わっています。氷上郡内の各地に住んでいる久下一族の人たちも、一番をいまま家紋としています。

[※家紋ワールド（外部サイトヘリンク）](#)